評 価 委

員会に

ょ

る評

価

『学校関係者評価報告書』

令和 5 年 3 月

三和小学校 学校関係者評価委員会

視点1 自己評価の状況について

- (1) 学校の重点目標や自己評価の評価項目等が適切か。
- (2) 自己評価の結果の内容が適切か。

(1) (2) 適切である

- 【確かな学力について】
 ・課題や取組に対して、組織的に取り組んだことが向上につながっている。
 ・どの学年も学期が進むにつれ、単元末や学期末テストの結果を踏まえ、目標を持って課題解決に取り組むことで成果が出ている。
- ・全国平均でも上で、教職員の取組もよく分かった。A評価でもよい。

【豊かな心と健やかな体について】

- ・児童会を中心として「挨拶名人」などの取組が主体的に行われている。 ・挨拶運動を中心に、評価活動をしながら児童の意欲を盛り上げ、頑張ることのよさ、達成感を味わ いつつ暮らしの意識を高めていることがよい。
- ・生活習慣については、保育所等とも連携するとよい。
- ・委員会活動等を通して主体的な行動がうかがえる。

【信頼される学校について】

・学校だよりや学級通信を通して、学校・担任の取組や児童の様子がよく分かり、安心して学校へ子供を預けることができたと考える。来年度も引き続き取り組んでほしい。

【確かな学力について】

- ・単元末,学期末テスト(思考・判断・表現)到達度は,算数に課題があるが,低・中学年では1学 期と比べ、大きく向上した。また、標準学力調査においても、全国平均を上回っていたのは、国語・算数とも6学年中5学年だった。分析を行い、課題を把握し学力の定着に向けて取り組んでいく。
- ・活動を進めていく中で様々な課題に気付き、自分事として捉えられるようになってきているので、 今後も丁寧に取り組んでいく。

【豊かな心と健やかな体について】

・今後も、学習や生活の場において、児童が自分で考え、判断したり、友達と協力できたりするよう な活動を仕組んでいく。

【信頼される学校について】

・学校への理解を得ることにもつながっているので、引き続き児童の学習や生活の様子・成長等を各種たよりを通して詳しく伝えていく。

改善の取組状況と今後の計画について 視点2

- (1) 学校運営の改善に向けた実際の取組みが適切か。
- (2) 自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切か。

(1)(2)適切である

【確かな学力について】

- ・思考・判断・表現の力はますます重要視されてくるが、その力を付けるのは難しいところもある。 自分事として捉える授業づくりを期待する。
- ・アンケートによる評定法で、課題のポイントをつかみ、授業改善を行っていることがよい。
- ・児童は教職員の教え方によって変わるので、意識して取り組んでほしい。

【豊かな心と健やかな体について】

- ・自己肯定感を育てるために学校・地域の中でいろいろな環境作りやいろいろな体験活動を仕組んで ほしい。
- ・友達のがんばりを認めたり励ましたりできる仲間づくりが地域へ帰っても見られている。
- ・学校内と外では挨拶など違うところがある。本気の挨拶ができるようになるとよい。 【信頼される学校について】

・ウィズコロナの中で学校行事や授業参観が増え、学校・保護者・地域・学校運営委員が同一の目的 でできるだけ多くの出逢いがもてることを期待する。

【確かな学力について】

・「学びを深める授業づくりをする」という目標に向け、組織的に行うことができた。これにより、 児童はどう考えたらいいかが分かるようになったり、理解が深まったりした。教員自身も根拠を問 うことが意識してできるようになったという変容が見られた。今後も引き続き取り組んでいく。

【豊かな心と健やかな体について】

- ・今後も児童会を中心とした「挨拶名人」の取り組みを継続したり、教職員自らが「レベル5の挨 拶」を率先垂範したりすることを通して、「自分から、相手に聞こえる声で、立ち止まって、相手の目を見て」挨拶ができる児童をさらに増やしていく。
- ・児童自身に具体的な目標を設定させ,学級通信等で内容等について周知し,家庭と連携して指導を 行う。

【信頼される学校について】

・来年度はさらに児童の様子や学習の成果を見ていただく機会を積極的に設け、学校教育活動の発信 に努めていく。

校 による改 向 性 善

学

評 価 委 員 会に よる

誣

学校に による改 善 \mathcal{O} 方向

性